

バイトと私

—お金では買えない成長—

13グループ 森合 英美

私にとって大切な社会とは、バイトです。もちろん、家族や友達との関係も大事な社会ですが、今年初めて始めたバイトは私を大きく変えました。バイトのおかげで社会の厳しさやお金をもらう大変さを身をもって知ることができました。結婚式のバイトは、「結婚」という人生の一大イベントに関わる仕事(主な仕事内容は参列者の誘導や挙式の進行、リムジンの誘導、フラワーシャワーの準備、教会内外の清掃)であり、自分の失敗でたくさんの人に迷惑をかけてしまいます。また、やりがいのある仕事であり、共に働いている方々は、「給料には満足していないが、やりがいがあるから続けられる」と話し、慎重にかつ責任をもって勤めています。そして私の仕事ぶりをよく見て注意してくださいませ。しかし、やはり失敗や間違いをすると本気で怒られてしまい、落ち込んだり注意がただの小言にしか聞こえなくなって苛立ったりと苦勞は尽きません。そのようななか、新郎新婦様や家族の皆様が嬉しそうな表情や感動して涙を流す姿を見ると、本当に貴重な時間を共に過ごさせていただいていることを実感します。そしていつも仕事に心がけている、一つひとつの仕事を丁寧に行うという動作を普段の生活でも行えるようになるとともに、自分がやろうという積極性や責任感も身についたと思います。そのようなバイト先をグループメンバーにもみてもらいたいと思い散歩で教会ともう一つのバイト先であるガスト(レストラン)に行きました。結婚式が行われていない教会はどこか冷静でいつもとは違う表情が見ることができました。ガストに到着し、中をのぞき見ると同僚の仲間たちが懸命に働いていました。ガスト(主な仕事内容は、フロア内のお客様への料理提供などのサービスや片付け、清掃、サラダバイキングの管理など)では常にチームワークや確認という動作の大切さを痛感しています。また、お客様に快適なおもてなしを提供できるよう周りをよく見て状況を判断し気を使う努めもできるようになり、コミュニケーション能力も向上したように思えます。人に向き合う仕事であり毎回異なる仕事で大変なこともあります。日々自分を成長させられるように、新たなもの、ひとに出会えることに喜びを感じながら頑張っていこうと思います。

私は最近ラストと呼ばれる時間帯(21:00~1:00)にシフトが入るようになりました。この時間帯での仕事は主に閉店処理であり、一人営業もしなくてはなりません。23:00になるともう一人のクルーが帰宅しフロアでのクルーが私ひとりになります。何か起きて誰にも頼ることができないので、自分で対処しなくてはなりません。先日、最後のお客様がお会計のときにレジが正常に動かなくなってしまい本当に焦りました。無事に会計を終わらせなければ、お客様にも迷惑がかかるし最終のレジ締めの際に未収がでてしまいます。結局なんとか自分を落ち着かせてさまざまな操作をすることにより解決することができました。その後わかったのですが、レジが異常をおこした原因は私の最初の

段階の操作ミスでした。そのときは閉店時間で、あと1時間ですべての処理を終えなければならぬと焦っていました。焦りがミスを生み、さらに自分を追い込むこととなったのです。他にもお正月にバイトが終わってから、友達と遊ぶ約束をした日に重大なミスをしてしまいました。友達と約束が楽しみで浮かれていたのと、早く仕事を終わらせたいという気持ちで確認作業を怠り、また注意力も錯乱していました。結果、店のキーカードをなくしてしまいました。レジ内にも売上金を残したままで処理をしていませんでした。私は何をやっているのだろうという自己嫌悪にひどく陥りました。今でも本当に反省しています。私は将来、看護師になるつもりです。もしこのような状況でこのようにミスをお客さんのまえで犯してしまったらと考えるだけで身震いをしてしまいます。今はもう二度と同じミスを犯さないように常に平常心で抜けのない仕事を心がけています。又、このとき一緒にいたクルーたちがキーカードを探してくれました。寒い中店の周りの雪をお湯で溶かしたりスコップで掘ったりして探してくれている姿を見て、私は本当にいい仲間に出会ったことを実感しました。もし他のクルーが困っているときは同じように私も助けたいと思います。

又、お客様に店の御利用方法を説明し終わったときに、お客様が私に対して「早口だったね」と言っているのを耳にしたことが何度かありました。そこで自分が早口であること実感しました。この講義のグループメンバーである留学生の方にも「少し早口ですよ。前の私でしたら聞き取れませんでした。」と言われました。これらのことで、これからはもっと“伝える”ということに重点をおかなければならないと感じました。

<話し合いの結果>

2人にバイトについてどのように感じているのか尋ねました。一人は塾の事務の仕事をしており、バイトは将来の職につながるものと考えていました。今のことは考えていない、稼ぎたいとかではなく将来仕事内での電話応答がしっかりできるよと思って働いている、といった言葉が印象的でした。また一人で働くことが多いため次の人に情報を伝えたり、効率よくこなせるように整理して順番を考えたりして行動できるようになり、そのことは今にもつながっていると感じると説明してくれました。もう一人のメンバーは披露宴や宴会のウエイトレスとして働いており、バイトは社会に出るまえに働くということを経験できるいい機会だと考えていました。日本語を上達させるためにこのバイトを始め、実際に聞き取り能力が上達したと感じている。社員さんが使う秋田弁も最初はアクセントも違い、全く異なった言葉に感じていたが、今では理解できるようになったと具体的に説明してくれました。韓国ではサービスが苦手だと感じ避けていたが、日本で言語を学ぶ目的で始めてみると意外と面白く、自分に向いていることに気が付いたということを知り、バイトは新たな方向性をも導いてくれるものなのだと知りました。続けてバイトのかけがえのなさや大切さをよく知るために、もしもバイトをしていなかったら、今とどのような違いがあったと考えるか質問してみました。前者はなかったら、サークル数を増やすか趣味

のために時間を使う。しかし、それだとお金がかかる。バイトならば、学ぶとともにお金を得ることができる。お金は目でも見ることができ、形（量）として頑張りを確認することができる」と答えました。後者は、なかったら自分はあまり話す機会がなく聞き役のまま、今のように日本語を上達させることができなかつたろうし、バイトのおかげで話すことが好きになったと答えました。私は2人の話を聞き、やはりバイトが与える影響は大きく、また2人はバイト初めてよかったと私と同じく感じているのだと思いました。

ではなぜテーマとしてバイトをあげたのが私だけだったのか、なぜその社会がほかの誰にとってでもなく自分にとって大切なのか考えてみました。そして結果として、バイトが私に与える「やりがい」「達成感」「喜び」など自分を揺さぶる感情が他のどんなものよりもまさると考えるからではないかという見解に至りました。2人がバイトに対する前向きな感じ方、思いは私と同じように感じられます。しかし異なる点があり、それは2人は将来のため自身の向上ためと、お金以外の目的ももって始めている、という点です。私はただ単に自由に使えるお金がほしくて始めました。しかし実際始めてみるとお金がもらえることよりも、働くことや日々自分が成長している（具体的に何に対しても「ま、いいや」と流さず完璧にこなすよう心がけるようになった、時間に余裕をもたせるようになった、自分の意見を前より端的に伝えられるようになったなど）と感じられることのほうが嬉しくて、そのような感情のギャップが先に述べた他にまさる感情を助長させたのではないかと考えました。また、バイトが自分にとって大切なのかを考えることによって、さらにその社会を熟考することにもつながり、無意識的であったその社会に対する感情にも気付くことができます。そしてまたその社会を大切に思うことができるというポジティブなサイクルが生まれるのではないかという結論に至りました。